

【アメリカ資本主義と現代グローバリゼーション考】

明治大学 柿崎 繁

1) はじめに

報告の狙い

2) 構成

1. 問題の所在と課題の限定
2. 現代グローバリゼーション把握の一基準
(1) 古典的資本主義経済における世界経済循環の基本性格、(2) 両大戦間期のアメリカを軸とした世界経済循環
(3) 冷戦対抗前史;戦後資本主義再編の枠組みの形成過程
3. 冷戦体制のもとでのアメリカ基軸のグローバリゼーション
(1) 冷戦体制とアメリカ資本主義、(2) 戦後欧州展開を軸としたグローバリゼーションの展開
4. 冷戦体制の解体過程とグローバリゼーション
(1) 旧 IMF 体制の解体、(2) 軍事インフレ・高金利の影響;金融革命の歴史的背景、(3) 金融革命・金融の国際化
(4) 新鋭産業基軸の経済循環の解体過程、(5) ME 化と生産のアジア化
5. 現代グローバリゼーションの枠組みの形成
(1) アメリカの通商・貿易政策、(2) 金融におけるグローバリゼーションの枠組みの形成
6. ポスト冷戦期のグローバリゼーション＝現代グローバリゼーション
(1) 冷戦体制解体後のアメリカの産業構造の変化、(2) 金融の証券化・グローバル化
7. 冷戦体制解体と産業基軸の巡回
(1) 冷戦体制解体と「冷戦後」不況(90-91年不況)、(2) 経済循環における基軸転換:株式さんバブルへ
(3) 90年代、株式上昇を軸とした資産バブルの一帰結
8. アメリカ金融危機から世界同時不況へ
(1) 2000年 IT 不況への対応、(2) 資産バブルの再開:不動産バブルによる景気高揚へ、(3) 資産バブル崩壊から
金融危機・世界同時不況へ、(4) 今次世界金融危機・同時不況の位置づけによせて

3) 概要

1. 現代グローバリゼーションの課題
 - ・「対立と混沌・貧富の格差の激化」を特徴とするグローバリゼーションをどう捉えるのか
冷戦とグローバリゼーション、ポスト冷戦とグローバリゼーション・資本主義の新たな段階?
 - ・冷戦体制解体後のグローバリゼーション＝現代グローバリゼーションを捉える際の問題の所在の確認
資本主義の矛盾の帰結・・・古典的段階、冷戦期、ポスト冷戦期、08年の危機(資本主義の新たな局面・段階へ?)
2. 戦後のアメリカ資本主義の地位
 - ・冷戦対抗の中で戦後資本主義再編の枢軸をになう
・・・第2次大戦が生み出した世界史的条件下の米の軍事力と生産力水準
 - ・核・ミサイル軍事機構
・・・体制維持の核を中軸とした軍事力・軍事同盟と相関的な生産力[新鋭軍事産業と米系 MNC の世界展開]
 - ・IMF・GATT・・・国際的諸機関を媒介にドルの基軸通貨化と多角的貿易体制を志向
3. 戦後アメリカの矛盾展開
 - ・軍事インフレ→スタグフレーション・・・政治的必要と経済プロパの対抗の表出・旧 IMF 体制の崩壊とオイルショック・ユーロ市場・デタントと ME 化の進展
 - ・日欧の成長と ME・情報・サービス化の進展
・・・日米貿易摩擦・生産の空洞化＝アジア化と MNC の相互浸透、
 - ・金融革命の推進と金融サービスへの利殖軌道の転換とグローバル市場との連繋
・・・[金融グローバリゼーションの背景]・産業構造の変化と相関的な金融・サービス化の展開[証券化の進展とグローバル化⇔国際基軸通貨ドルのもとでの変動相場制＝ドル本位制転化により実体と乖離した自己増殖運動の展開]

4, ポスト冷戦

- ・冷戦体制解体＝中国の改革・開放[市場経済化路線]・ソ連東欧社会主義崩壊・インドの自由化路線など 30 億人規模のグローバル市場・・・ウォール街・財務省・IMF 世銀の金融権力の構築と米中を双軸とする世界生産システムの編制(WTO 体制下の NAFTA・EU 等地域市場圏・FTA)
- ・アメリカ経済構造の変化とグローバルな市場との連繋
生産の空洞化・格差と社会分裂のもとで戦争景気と対米投資の「強制」による失業・社会不安の「解消」
・・・「絶望的な」格差拡大、移民・貧困層の暴動・社会不安→戦争による「統合」、マイノリティ対策、対米投資誘致
金融革命と証券化＝グローバル市場とリンク→90-91 冷戦後不況・90 年代の逆プラザから M&A と IT バブル
・・・「帝国循環」・「寄生的資金循環」のもとでの株式基調の資産バブル軌道
情報ネットワーク化と世界の生産編制(本国の生産空洞化＝MNC の相互浸透・提携[国際系列・下請け編制])
→資産バブルと証券化を媒介に世界的過剰資金の取込みによる景気浮揚・過剰消費と相関的なアメリカ依存の
世界経済循環とオフショアリング・ネット調達＝国際下請け生産などに表出する生産の世界的再配置とグローバル市場の登場[投機対象の拡大] ⇔ 08 年世界金融・経済危機の構図

4) 論点・・・今後の実証・検討課題

1. ヒト・モノ・カネの世界的展開＝グローバリゼーション一般ではなく、現段階のグローバリゼーションの分析視角
 - 1) アメリカの成立史的特質と生産力水準に規定されるブロックシステムを排した開放的世界経済体制への志向(本来のグローバリゼーション)と挫折(冷戦下のグローバリゼーション)
 - 2) 第 2 次大戦後の資本主義の危機が生み出した世界再編の中軸としての冷戦帝国主義アメリカとその解体
・覇権国家アメリカへ・・・米を中軸とする金融と情報サービス、さらには米・中をいわば「双極」として MNC の相互浸透・提携を通じた生産の世界的配置・編制←帝国主義列強対立の封殺
 - 3) 金融を軸としたグローバリゼーション
情報通信革命の産物であると同時に冷戦帝国主義アメリカの矛盾[政治的必要と経済固有の論理との矛盾]展開の一側面である構造変化[生産(空洞化)→金融・情報サービス(世界的金融権力の構築)]の産物との結合・・・生産の空洞化と MNC の「相互浸透」→金融サービスに利殖の軌道転轍と情報ネットワークによる生産の世界的再配置(ME 化と生産のアジア化→米・中を双軸とした BRICs の構成へ)
核・ミサイル軍事機構を支えた新鋭軍事産業の分解と米再生産・循環構造の変化との関連で金融・情報サービス化を掴まえる・・・アメリカ産業構造の分析に於ける軍事の関わり
2. 08 年世界金融・経済危機が示した金融を軸としたグローバリゼーション
 - 1) 今回の世界金融・経済危機の特質・・・旧 IMF＝変動相場制のもとでの金融危機、情報通信革命と相関的に発展した金融工学が増幅、国家の全面的介入を必至とした深刻なアメリカ発の金融システム危機の世界的連鎖、世界的金融危機から実体における世界同時不況へ・・・金融から実体への一般論ではなく、生産の世界的配置の構図と金融・情報サービスとの連関構造の解明の必要
 - 2) 冷戦帝アメリカの矛盾の一集約である軍事インフレ対応としての金融革命と連動したグローバリゼーション
 - 3) 金融と並んで生産の世界的再配置の進行・・・推進力はネット調達・ネットビジネスで、金融は媒介
3. 冷戦体制の解体の産物として現代グローバリゼーションを捉える視角
 - ① 戦後冷戦体制の評価:冷戦体制解体後の 90 年代に「本格化」するグローバリゼーション
 - ② 現代グローバリゼーションが「新たな資本主義の段階」＝「グローバル資本主義」として「安定的」で新たな再生産・循環軌道を定置?・・・「帝国循環」のもとでの「バブル・リレー循環?」、情報資本主義は新たな生産様式?
4. 帝国主義(レーニン)、国独資、冷戦帝国主義、帝国、覇権国家などの一連のタームの概念規定
 - ・政治学の分野では、冷戦の再検証、帝国(主義)概念の検討←ブッシュの戦争に触発
 - ・レーニン「不均等発展論」あるいは「戦争・危機循環」にせよ、冷戦解体のもとでは理論的には世界経済の運動の基調・趨勢としては「列強対立?」⇔協調・提携
 - ・戦後日本資本主義とアメリカとの関連を把握する分析視角・・・昨今の基地問題、貢納資金循環を顧みて